

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃげきだんかぜのこ 有限会社劇団風の子		
代表者職・氏名	代表取締役 大潤弘幸		
制作団体所在地	〒 192-0152		
	東京都八王子市美山町1320-1		
電話番号	042-652-1001	FAX番号	042-652-1013
ふりがな 公演団体名	げきだんかぜのこ 劇団風の子		
代表者職・氏名	代表取締役 大潤弘幸		
公演団体所在地	〒 192-0152		
	東京都八王子市美山町1320-1		
制作団体 設立年月	1950年 7月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役／大潤弘幸、事務局長／岡本圭、制作部長／浅野井優子、創造部長／菅原武人	【構成員】俳優17名、制作11名、文芸・演出3名 【加入条件】劇団風の子国際児童演劇研究所卒業及び一定の経験者、18歳以上の健康な方	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	岡本圭
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	西川恵美子

制作団体沿革	1950年7月、子どもの為の専門劇団として創立。以来『子どものいるとどこへでも』を合言葉に、全国を巡演。 1983年より全国に地域劇団風の子を発足させる。劇団風の子北海道、劇団風の子中部、劇団風の子関西、劇団風の子九州がそれぞれ法人独立し、現在「有限会社劇団風の子」は首都圏を拠点に活動している。			
学校等における公演実績	【2020年度公演実績】 ●小学校公演:6作品91公演148ステージ(「スクラム☆ガッシン」55st、「ペコと秘密の樹」63st、「とんからり」3st、「風の一座」2st、「ソノヒカギリ美術館」5st、「ちえんじ図書室のすきまから」20st) ●幼稚園・保育園、子ども劇場その他の公演:10作品244公演367ステージ(「スクラム☆ガッシン」2st、「とんからり」44st、「風の子バザール」40st、「風の一座」42st、「ないしょないしょのしっぽがぽん」86st、「ぞうのエルマー」34st、「まるさんかくしかく」23st、「ソノヒカギリ美術館」64st、「黄金の実」9st、「ポロロンシアター」23st)			
特別支援学校における公演実績	都立南大沢学園、岡山県新見市健康の森学園、宮崎県日南市くろしお支援学校、福島県会津若松市特別支援学校、広島県庄原市特別支援学校、埼玉県日高市特別支援学校、静岡県伊豆の国市東部特別支援学校、青森県青森市青森県立青森若葉養護学校、北海道黒松内町北海道余市養護学校しりべし学園分校、北海道札幌市手稲養護学校 など			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:		
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
	PW:			

公演・ワークショップの内容

		【公演団体名		劇団風の子		】	
対象	○	小学生(低学年)		-		中学生	
	○	小学生(中学年)					
	○	小学生(高学年)					
企画名	“一回しかない子ども時代を子どもらしく生きる”「スクラム☆ガッシン 準備完了！第2号計画」(ダッシュュ)						
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「スクラム☆ガッシン 準備完了！第2号計画」(ダッシュュ)」 作・脚本／田中つとむ 演出／中島 研 音楽・効果／曲尾友克 美術／浅野井優子・風の子大道具プロジェクトチーム 制作／大森靖枝 公演時間(80分)						
著作権	○	制作団体が所有		制作団体以外が所有する事項が含まれる		(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況	
演目概要	いろいろな色や、いろいろな音があるように、私たち人間も一人ひとり、皆ちがう感性や個性をもって生きており、それは、とても素敵なことです。この作品では、五人の子どもたちが、いろいろな価値観や考え方の違いにぶつかりながら、笑い、泣き、怒り…、一人ひとりが自分と相手と真剣に向かいあい、お互いをちょっと認めあい、仲間と一緒に一本のお芝居をつくりあげるまでを描いています。 <あらすじ> 小学四年生の男子四人と女子がひとり、そんな五人の物語。 自分たちでつくったひみつ基地がマンション建設のため壊された。皆、走って走って走って…、着いたところは橋の下。「新しいひみつ基地をつくるまでは、ここを集まる場所にしよう」 ＊ 今度の学年お楽しみ会の出し物に、自分たちのやりたいことをやろうと言ひ出したものの、歌は無理だし、ダンスはもっと無理。 「じゃ、劇やらない？」「えー！」と、劇に決まる。 テキスト『小学校劇の本』を読みながら、ますだ屋のおばさんから借りた本『熊と弓』を台本にして、斉藤、五郎ちゃん、たつちゃん、プーヤン、島ちゃん、そして女神の役をクラスの人気者安田さんに頼むことになり、六人での劇の練習が始まった。しかし、いろんな困難が押しよせてくる。さあ、六人はこの大きな壁を乗り越えることができるのでしょうか…。						
演目選択理由	新型コロナウイルス感染症やさまざまなことで我慢を強いられている今の子どもたち。一回しかない子ども時代を、仲間と群れて遊び、豊かな、そしてずっしりとした体験を通して、子どもらしく生きていってほしい。そんなことを思い、この作品を選びました。一人遊びの時間が増え、他者と深く関わりあうことを避ける風潮の中で、子どもたちが主体的に他者とのコミュニケーションをとるようになるためには、「やりたい！」という強い気持ちを持つことだと思います。この劇を観た子どもたちに「あんな友だちがほしい」「あんなことをしてみたい」「友だちと一緒に楽しいことをやりとげたい」など、いろいろな気持ちが湧き上がることを願い、この作品を申請します。令和3年度の公演より「森がいくつ」で子どもたちが考えてくれた台詞はとても素敵です。『もしかして君さみしいのかい？』今、たくさん制限されている生活の中で心の声が聞こえたような気がします。誰かが便利になったら誰かが不自由になるかもしれない。いつかまた元通りの生活に戻った時に、自由さに心躍らせてしまうばかりではなく、きっと心の片隅に今感じている不自由さがあってもその中には学びがある。共存共栄の精神を忘れてはならないと、子どもたちに気づかされました。今年度もまた子どもたちと共に創りあいしたいと思います。						
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	①「森がいくつ」 お芝居の中で、5人の子どもたちは学年お楽しみ会で、『熊と弓』という本を劇で演じることにしました。5人は図書室で熊について調べ、熊の生態や人間社会との関わりなどを知っていきます。参加する子どもたちには、この場面では、俳優たちと一緒に「森がいくつ」という歌を身体表現しながら歌っていただきます。 自然と人間の間を考えた台詞と、森の木々や電車などの身体表現をしてもらいます。体育館全体が大きな森のように感じられるようになりたいシーンで、子どもたちの豊かな表現力が生かされます。 ②「妖精のシーン」 劇中劇の主人公の若者役になった島ちゃんが、なかなかセリフを覚えられず夢でうなされるシーンで、不思議な妖精たちが出てきます。「逃げちゃダメ～」 「正面からぶつかれ～」と励ます妖精の役を、劇団で用意した衣裳(妖精の羽根と花の髪飾り)をつけて、俳優と一緒にコミカルに演じていただきます。台詞を覚えられなくて悩んでいる島ちゃんが一步踏み出す、そんなきっかけを作る大事な役どころです。 ＊令和元年および3年度のこの事業で公演した際、子どもたちの自由な心でたくさんの感動的な台詞が生まれ、笑いが溢れ、舞台がおおいに盛り上がりました。今回もソーシャル・ディスタンスを守りながら、新たな表現方法を模索してより楽しくしていきたいと思っています。(別添あり)						
出演者	大堀鷹、川島夏、松田琢也、井部直人、中瀬かほ、高村映摩(予定)						
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者： 6 名 スタッフ： 1 名 合 計： 7 名		機材等 運搬方法		積載量： 3 t 車 長： 6.99 m 台 数： 1 台		

【公演団体名 劇団風の子 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み/リハーサル	本公演	内休憩	撤去	退出
	7時半	7時半～10時半/11時～12時	13時半～14時50分	0分(暑い時期 は休憩入れる ことも可能)	15時～17時	17時半
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
	ワークショップ		「森がいくつ」最大30名、「妖精のシーン」最大20名			
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		450名			
ワークショップ 実施形態及び内容	事前に各学校に作品全体のわかるDVDとCDおよび楽譜、ワークショップの内容、目的、準備してもらいもの等を記したものを送ります。各学校で参加学年を決めていただきます。 1.初めに、ウォーミングアップとして簡単な表現あそびをして、子どもたちの心と身体をほぐします。 2.劇のストーリー、参加場面の背景をDVDを見ながら説明します。 3.グループに分かれて練習します。 ①「森がいくつ」 ・まず体育館でおおまかな動線を説明して動いてもらいます。 ・別室に行き、四つのグループに分かれます。 森の木が切り倒され、大きな道路が出来たことで何が起きるのか、どう思うのかをグループ内で話し合い、“一言台詞”や森の中の身体表現を考えます。 ・体育館に戻り、実際の舞台の寸法できつかけの台詞と共に動きと歌を練習します。 ・本番までに台詞や動きを練り直して、自分たちらしい表現を追求してもらいたいことを伝えます。 ②「妖精のシーン」 ・まず二つ(人数によっては四つ)にグループ分けをします。 ・本番で自分の座る位置と衣裳(羽根と髪飾り)を確認します。 ・妖精がどんな動きをするのか、どんな声を出すのか、あそびながら考えます。 ・お芝居の中のきつかけの台詞を覚え、どこで衣裳を身に付けて立ち、舞台へ出るのか、そしてどう動いてどこで台詞を言うのかを繰り返し練習します。(台詞は役者の後に繰り返す形なので、覚えておく必要はありません) ・本番までに自分たちらしい表現方法がもっとないか、考えて練習してほしいことを伝えます。 4.全員で集合して、練習したことを互いに見せ合います。(最終に通した演技の動画を撮ってもらい、本番までのおさらいに活かしてもらいます) 5.本番までにやっておいてもらいたいことを確認し、当日は本番前にリハーサルで役者たちと実際のステージが組まれたところで練習することを説明します。					
ワークショップ 実施形態の意図	『熊と弓』という本に出逢った子どもたちが、図書室で熊の生態を調べるうち、人と自然の共存のことなどに思いを馳せ「森がいくつ」という歌が生まれます。その歌と一緒に歌い森を表現することで、森や自然の動物・植物たちに目を向けてもらえたらと思います。 主人公の島ちゃんの悩みや心の揺れは、現代を生きる子どもたちが共感してくれる場面です。その主人公を励ます妖精を演じることによって、悩みや壁を乗り越えるための工夫を考え、それを観た他の子どもたちにも元気や勇気を伝えられたらと思います。					
特別支援学校での 実施における工夫点	①「森がいくつ」では、一緒に歌ったり、ハミングしたり、身体をゆすったり、その子その子の可能な方法で参加することができます。リズムにのって身体を動かすだけでも可能です。 ②「妖精のシーン」では、その場で立ち上がったたり、座ったままでも、その子なりの表現をしていただきます。みんなで一緒に、楽しさ・嬉しさを共有することが目的です。					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

体育館をいっぱいに使った舞台

先生・子どもたちの感想

《先生方の感想》

●「かんぱん」と「しするゆゑ」の衝突。子どもたち、よくに
 寛平年ではよくあることだ、そこを乗りこえ仲間として
 ようにまとめていく環境人物の姿に、憧れや、「じ」がありた
 らしいという理想をもつたと思います。この目分と友だち
 とのかかわり、今後目指したい姿が、具体的に見えたま
 うで感謝です。

●それぞれの学生の子もただが、それぞれに、多彩な視点からの作品を観ており、笑ったり、ヒキヒキしたり、悲しくなったり、子どもたちは心を大きく揺さぶられ、その感動を懸命に伝えようとしてします。いろいろな体験を積み重ねることで、子どもたちの「表現力」という意欲にもつながってくるでしょう。

《千手もたちの感想》

●私はこの劇をみて、友だちとの関係を見直そうと思い
ました。劇に出てきた言葉で、友だちを信じる気持ちがあ
り、必要だなと思いました。おたがいに信じあえるそんな友
だちがいます。
(六年生)



●課題をいじりだしてですね。大きな皿で、図鑑力
もめり、集まつてました。ほくも学校で集くへ頭し
ます。でも、なんに集った
ところは熊のうしろで
す。思ひだりすうに理
力で、おろすまました。
ほくは動かないです。
人前でしやるのうが、
てからです。ならで、
動のうまは自分を書い
て、血書もわけてが、はりだす。
(五年生)

[illegible]

●わたしは 五人の子ともたちがごかりあしなが
ら、わらんだり、なしたり、おどったりと じつじつを
するのがいなめう騒ぎました。わたしも 田 田た
らわたりつたりう騒ぎました。
(三年生)

[illegible]

● 世く世くとうふりかへるを憂ひ、拙手なにとぞなむ
 國でうらみかへたら、なむしすに、世にまじたりし
 御子にぞたふ、世はなま太極にうたふぞ、とふ、ひ
 らんはすべくにめきあら
 てしほつひで、あきらめ
 す、最後までがんばり
 たいと思ひました
 (四年生)



● ぼくは、すてた、一回
もらもらになりたく、た
ちな抱つてゐるうを罵
り、ぼくがみんなんもら
もらになつてく、たちな
抱れるうについで
す。もらもらになりたくな



劇団風の子の活動

劇団風の子は、まだ戦後の焼野原に残る東京世田谷で、子ども会や子ども文庫の活動をしていた多田徹を中心とする若者たちによって、1950年に始められました。

「日本の未来を考えることは、これからの日本の子どものことを考
えること」を劇団の理念とし、以来、約70年、“子どものいるところこ
へでも”を合言葉に、北海道から沖縄まで、全国で公演を続けてい
ます。

また、1970年代からは、ドイツ、カナダ、中近東、東南アジア、アフリカ、アメリカ、ロシア、韓国、中国など海外での公演も積極的に行なってきたっており、国際的な文化交流の輪も年々ひろがってきています。

劇団風の子は、これからも子どもの目の高さから新しい創造に挑み続け、視野を世界に広げ、子どもの育つ地域に目を向け、先生方や子どもをとりまくおとなたちと連携し、子どもたちの心の中にとびこんでいきたいと思っています。



おとな星のうたたね



陽気なハンス



令和3年度文化芸術による子供育成総合事業採択

作／田中つとむ 演出／中島 研 制作／大森靖枝



風子園

〒192-0152 東京都八王子市美山町1320-1 TEL.042(652)1001
(Eメール) tokyo@kazenoko.co.jp FAX.042(652)1013
(ホームページ) <http://www.kazenoko.co.jp>



準備完了！第2号計画

音楽・効果／曲尾友克 美術／浅野井優子・風の子大道具プロジェクトチーム 照明／高木雄大 制作／大森靖枝

生きるのって楽しい

●●作者から聴こえんく●●

男くは生まれてからこれまで、おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、たくさんのおきたち、近所のおきさん、おきさん、いろんな人に支えられて、六十歳を過ぎるまで生きてきました。そして今はおき屋をしながら、楽しくて楽しくてしかたのなら毎日を送っています。

子どものころは自分から嫌いだ、友だちがうらやましくて、いまだに生きているのがうらやましいと思っていました。

今、酒で苦しい気持ちになつてくる人々がいるかもしれない。そんな人が「おき屋をなして」「生きるのって楽しい」と感じて、少し元気になつたらいいな、男くは幸せです。

作◎田中つとむ



■スタッフ 作・脚本／田中つとむ 演出／中島 研

あらすじ

小学四年生の男子四人と女子がひとり、そんな五人の物語。
自分たちでつくつたみこ基地がイン・ミ建設のため壊された。
「くそー！」

道 走って走って走って、踊らだういさ橋のト。「新しいみこ基地をつくるまでは、ここに集まる場所にしよう」

*

今度の学年は楽しいおきの出し物に、自分たちのやりだいにしをやらうと言ひ出したものの、歌は無理だし、みくはむこと無理。

「じゃ、魔やらのらうい」「えー！」と、劇に決まる。

トキスト『小学校劇の本』を読みながら、斎藤は、まずは屋のおきさんから借りた本『熊と』を台本にして、五郎ちゃん、だつとあ、アーヤン、鳥ちゃんの五人の劇の練習が始まる。しかし、いろんな困難が押し寄せてくる。おき、五人はこの大なる壁を乗り越えることができるのでしょうか。



仲間といっしょに未来をつくる

演出◎中島 研

一回しかならずとも時代を、仲間と誰かに遊び、夢かな、そして夢ついでとたてた体験をとおして、子どもらしく生きていくこと。そんなことを思ひながら、この作品がつまれました。

いろんな色や、いろんな音があるように、私たち人間も一人ひとりの、皆それぞれ個性や個性をもつて生きています。それは、とても素敵なこと。五人の子どもたちが、いろんな価値観や考え方の違いにぶつかりながら、笑ひ、泣き、怒り、一人ひとりの自分と相手と真剣に向かいあひ、お互いを支え合ひあひ、仲間と一緒に一本のおき屋をつくりあげていく姿を想っています。

『子どもといっしょ』と、『未来をつくる』というものを、とらえようとしたら、この劇を上演しなれば、これからも探り続けたいと思っています。



子どものやる気はひまです

制作◎大森靖枝

「子どもたちが主体的に動かない」「指示があると動けるが、指示がなくなると自分でなにをやりだいのかわからない」そんな言葉をよく耳にします。

でも表現遊びや探偵ゲームなどで出会う子どもたちは、キウキウとした「ヒューン」や「アハハ」の笑ひ、仲間を大事にする心を感ずります。おき屋をなして役者の責めや悲しみに寄り添ひ、心はなみきりしている子どもたちがいます。そんな姿を見るに、子どもたちは本質的には、昔からうらやまを感じていないといえなくないと思います。

子どもたちが主体的に動くためには「やりだろー」という強い気持ちをもつことです。「やらなくて」「やなくて」より、まずは「やりだろー」という気持ちから大事に思ひます。

この劇をみた子どもたちに、「あんな友だちがほしい」「あんなことをしてみたい」「友だちと一緒に楽しいことをやりだろー」といふ、いろんな気持ちがわきあがるとを思っています。



【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	B19	分野	演劇	種目	児童劇	ブロック	B	区分	A区分
公演団体名	劇団風の子				制作団体名	有限会社 劇団風の子			

① 会場条件等についての確認

項目		必要条件等						応相談	
控室について		必要数 *	1室	条件		廊下や外から見えないようカーテンがあることが望ましい。体育館内でまかなうことも可			可
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			中型バス	1台				不可
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細								
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			中型バス				不可	
	搬入車両の横づけの要否 *			要				可	
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			10m以内				可	
	搬入経路の最低条件			・入り口、経路、階段とも、幅1.8m以上が望ましい ・屋根のある経路が望ましい					
	理由			舞台大道具の大きさ・点数・重量					
	設置階の制限 *			エレベーターの設置等があれば2階以上も可				可	
	搬入間口について 単位:メートル		幅	1.8m	高さ	2m		可	
	WSIについて	参加可能人数		「森がいくつ」最大30名、「妖精のシーン」最大20名					可
学年の指定の有無 *		あり	指定学年 *	中学年	中学年		可		
所要時間の目安 単位:分		およそ90分(二時限分)					—		
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					
	鑑賞可能人数			450名					可
	舞台設置場所 *			フロア					不可
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル		幅	14m	奥行	18m	高さ		可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			不要				—
		舞台袖スペースの条件 *							—
		緞帳 *	不要		バトン *	要 照明用に借用する場合あり			可
	遮光(暗幕等)の要否 *			要	理由	直射日光が入る部分は閉める			可
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *		不要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。				—
		ピアノの事前調律 *		不要				—	
	フロアを使用する場合の条件		バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可				—
	公演に必要な電源容量			80A	※主幹電源の必要容量				可
	その他特記事項								応相談
舞台設置に必要な広さについては、一般的な小学校の体育館ならば可能です。								可	
フロア内に舞台スペースをとるため、狭い場合は鑑賞可能人数が減ることがあります。								可	

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	1.8m	高さ	2m
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		10m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

